

第15期 葛飾区社会教育委員の会議（第2回）会議録

● 開催日時 令和7年7月14日（月） 午前10時～正午

● 会 場 ウィメンズパル洋室D

● 出席者

社会教育委員 （6人）

大島 英樹 歌川 光一 竹内 理恵 藤野 尚子
伊藤 香織 千葉 貴志

事務局職員（4人）

生涯学習課長	土居 真喜
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課担当係長	柳澤 雅弘
生涯学習課学び支援係	矢作 孝寛

合計 10 人

次第

1 報告事項

- （1）社会教育関係団体への補助金支出についての質問回答
- （2）社会教育関係団体への補助金支出についての答申

2 議事

- （1）協議テーマについて
- （2）その他

第15期社会教育委員の会議スケジュール訂正

【配付資料】

- ・社会教育関係団体への補助金支出についての答申[資料1]
- ・第15期社会教育委員の会議スケジュール [資料2]
- ・チラシ（葛飾区 クラウドファンディング）

—開会—

○事務局 それではお時間になりましたので、加藤委員がまだお見えになっていませんが、始めさせていただきます。本日は雨の中おいでいただきまして、ありがとうございます。ただいまから第2回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。

本日、増田委員からご欠席のご連絡をいただいております。併せて、千葉委員が所用のため11時半に退席されます。

○事務局 本日傍聴の方はいらっしゃいません。続きまして会議録についてご説明いたします。先日皆様にメールでお送りさせていただいて、ご確認・ご修正いただいたものですが、近日中に区のホームページに掲載を予定しております。よろしくお願いいたします。

本日の資料のご説明をさせていただきます。お手元に、本日の次第、資料1 社会教育関係団体の補助金交付についての答申、資料2 会議スケジュールを置かせていただきました。会議スケジュールにつきましては、前回も配付させていただきましたが、内容に一部誤りがございました。修正箇所は後ほどご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、この後の進行は大島議長にお願いいたします。

○議長 改めて、皆さんおはようございます。台風が近づいていてそわそわしますが、今後の予定や全体像が見えるようにできればと思っております。皆さんと一緒に前に進めるような進行に努めたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、お手元の次第に沿ってということなので、1 番目の報告事項が2 点ございますので1 番目からいきたいと思います。社会教育関係団体への補助金支出についての質問回答について、事務局からご説明をお願いいたします。

○生涯学習課長 それでは私の方からご説明させていただきます。文化協会の加入と脱退の状況についてご質問をお受けしておりましたので、ご回答させていただきます。

文化協会につきましては、昭和32年（1975年）に発足しております。当初の団体数は9 団体でした。その後、参加団体が増えまして、平成6年（1994年）に18 団体、こちらが一番多い時期となります。その後2 団体が脱退し、令和7年現在につきましては、18 団体となっております。団体が抜けた理由については、資料が残っておりませんでした。

回答については以上となります。

○議長 ありがとうございます。初めから同じ団体数ではなかったということですね。今後の増減の予測はなかなか立たないのでしょうか。

○生涯学習課長 立たないです。

○事務局 文化協会それぞれ団体の皆さん、高齢化を迎えておりまして、それぞれ若い方々に会に入っていただくような働きかけをされているわけですが、高齢化に歯止めがきかないという状況もあるので、なかなか厳しい状況であると我々は認識しております。

○議長 ありがとうございます。それでは、ただいまのご説明について、委員の皆様ご質問等ありますでしょうか。なかなか答えを聞いてもというところもあると思いますが、継続的に見ていければいいのかなと思います。ありがとうございます。

では、続いて報告事項の2 社会教育関係団体への補助金申請についての答申です。前回、私たちは補助金の支出について、担当課長・係長から説明を受けて、審議して参りました。その結果を皆様の机上にコピーがあります答申という形で、議長名で作成いたしました。お手元の資料1 の答申の内容は、審議を行った5 団体全てが補助金の支出は妥当であるというものとなります。ただし、葛飾区の子ども会育成会連合会については、付帯意見として「会議費の大幅な増額要因である子どもの居場所づくりについて、次年度の申請書に具体的な成果を記載していただきたい」と書かせていただきました。

このような形で、答申を教育委員会に提出しましたので、委員の皆様にご了承いただきたいと思います。

○事務局 補助金の審議といっても、具体的に予算書や報告書など、それぞれの団体の書式がある中で、専門的な内容が含まれていたりするので、どのように審議していいか迷われた部分もあると思いますが、皆様にご了解いただいたということで、教育委員会に提出いたしました。

○議長 補足ありがとうございました。限られた機会しかないので、そういう意味では、積極的に気になることを投げ返していくことも大事だと思いますので、次は1年後ですが、それまでの間にも各団体の活動に触れることもおありかと思いますので、お気づきの点をご指摘いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項2までよろしいでしょうか。そうしましたら、議事を進めたいと思います。(1)の協議テーマについてですが、第15期の協議テーマは、「これからのPTA支援のあり方」ですが、こちらについて、前回、委員の皆様から自己紹介を兼ね、少しだけ思いをお聞きしましたが、本日時間を取って、思いのたけをお話いただければと思います、ワークを取り入れながら、皆さんの中に詰まっているこのテーマに対する思いを共有できればと思っております。

本日の流れの説明をしたいと思いますので、資料の配付をお願いいたします。そちらをご覧くださいながら、流れについてご説明したいと思います。本日の課題は、協議テーマについてとなっていますが、関心の分かち合いと計画づくりを目標としたいと思います。

1つ目の目標にあります、何をどのように話していくかを整理するという事で、委員の皆様のお考えを共有していきたいと思いますので、それを出していただけるようなことをやってみたい。

そして2つ目ですが、月に1回開催の会議のため、なかなか次回までのイメージを持つことが難しいので、次回の概略が常にイメージできるように、できれば少し先までの見通し、順番を一緒に決められたらと思っておりますのでご提案になります。

太文字の2番、関心の分かち合いに進みますが、ここからワーク的な手法を取り入れて、皆さんの思いをお聞きしたいと思います、大きく2つあります。

1つ目が「2本立てのブレインストーミング」、2つ目が「出てきた内容を整理する(KJ法)」ということで、こちらを活用しながらやってみたいと思います。

1)のルールの説明とありますが、用紙をめぐっていただくと、ブレインストーミングのルールの簡潔なまとめがありましたので、改めて共有したいと思います。皆さんの中に、詰まっている思いをたくさん出していただくにあたって、まずルールの確認を行います。

1番目、アイデアに対して批判・否定をしない。誰かが出したアイデアに対して何か言う暇があったら、もっとアイデアを出しましょうということです。

2番目、変わったアイデアを歓迎する。大胆な意見を出し合いましょうということです。

3番目、質より量を重要視する。皆様この後お仕事だと思いますので、へとへとになるまでとは言いませんが、なるべくたくさん出し切っていただこうと思います。

4番目、アイデアをまとめる。この後の話が関わってくるのでここでは説明を省略します。

その下、本日はここにローカルルールを1つ加えます。5番目、発案者の目印をつける。こちらをお願いしたいと思います。

この後、大きめの付箋をお配りいただきますけれど、協議テーマについて話したいこと、聞いてほしいことと、聞きたいこと知りたいことを同時並行でやってみたいと思いま

す。付箋の端にご自身の印みたいなのを書いていただければと思います。お名前の頭文字でも何でも構いませんけど、どなたが書いたものかわかりやすいようにお願いします。

もう一度表に戻っていただいて、本日はホワイトボードを2面ご用意いただいているので、テーマに対して2つの方向性で同時にアイデア出しをしていけたらと思います。それが、項番2のテーマの説明です。教育長からいただいた協議テーマ、これからのPTA支援のあり方に対して、Aは皆様が話したいこと、聞いてほしいこととお書きください。Bは聞きたいこと知りたいこととお書きください。このように2つの場所に分け、次々と思いつくことを挙げていただけたらと思います。

まずは、挙げていただくところまで行い、その後、出てきた内容を整理するという形で進めていきたいと思っています。思いついたらその都度貼りに行くスタイルでよろしいですか。まとめて書いてから貼りに行くのでもいいのですが、人のものを見ると刺激を受けるというのがブレインストーミングの大事なところだと思いますので。一般的なブレインストーミングよりも少し長めの15分から20分ぐらいの時間で、思いつくことをたくさんお出しただこうと考えております。大体どんな感じかイメージを共有いただけましたでしょうか。

そうしましたら、今期の協議テーマに対して、話したいこと、聞いてほしいこと、聞きたいこと、知りたいことを思いつくままお出しただければと思います。今21分ですので、35分ぐらいまでたくさん思いのたけをお出しただければと思います。よろしくお願いします。

(ブレインストーミング中)

○議長 お時間になりましたので、一旦アイデア出しを区切りにしたいと思います。ここから、どんなご意見が出ているのか共有して、できればカテゴリーごとにまとめて、さらに順調にいけば、次回、次々回の話題提供者まで決めていければと思います。前提としてご欠席の加藤委員さん、増田委員さんの思いもあるので、今日のメンバーで出てきたところということで、計画に余地を残しながらできたらと思います。

AとBで書いていただいた中、Bの方がたくさん出ていますが、Bの方はゆっくり詰めていけると思うので、最初にAの方と一緒に共有していけたらと思います。まずはまとめていく感じで、賛否で分けたいと思います。

「PTAは必要」、「PTAが必要な理由」、「PTA会費の在り方」、「PTAを否定される理由」。「PTAの役員をやった」というのは、賛否どちらでしょう。

○竹内委員 ずっと私PTA役員でした。

○議長 そうするとPTAは必要。

○竹内委員 そうですね必要だからやりました。

○議長 「今でも仲間と飲み会がある」。

○竹内委員 やってよかった方ですね。

○議長 「PTA保護者としての経験、教員としての経験から感じること」、賛否はどちらでしょう。

○伊藤委員 やってよかった方ですね。

○議長 「もっと楽しく活動して欲しい」、これは注文のようですね。「地域団体との協働」、これははまりにくいのでその他とします。それから、「地元の教職志望学生への期待が高まっている」。

○議長 「保護者の考え方とPTA会長の考え方の違い」、「校長先生によってPTAのあり方が変わってくる」、「PTA会長の考え方の違い」。

○藤野委員 PTA会長が代わるとガラリと変わってくる。校長先生もそうなのですが。

○議長 「親からするとPTAは何するものなのか」。

○生涯学習課長 これは私です。4月に学校に行くとPTAの役員を決めますと言われるのですが、それだけしか説明がないのです。メリットはいろいろ言ってくれるのですが、PTAそのものの説明がないのです。役員の役目については、説明をたくさん受けるのですが、PTA自体についての説明は受けたことがない。何するのかわからないのに、やってくれということだけすごく言われる。

○議長 PTAの歴史と制度について、改めて共有することが大事なのかなと。「人を説得したりすることが苦手な時代」。

○副議長 私です。人間関係の研究をしていて、少し外れた意見かもしれませんが。

○議長 そうすると、いろいろな話が出てきて、そういうものの前提として、先ほど課長がおっしゃられたように、どのようなものかという問いもほっとけないと思います。

ここでは順番みたいなものがあつたほうがいいのでしょうか。今持っている情報としては、私も歌川先生もPTA研究者というわけではないので、いきなり歴史や制度が話しできるという状態ではないので、勉強しながらお伝えすることになる。

○副議長 ここがまず軸になる意見。

○議長 なるほどボリュームが。そういう方がいいかもしれないですね。まず価値判断する前にご経験を聞いてみて、そこから少し方向性があるお話を聞けたらと思います。

「区が持っている情報を知りたい」と書いてあるのですが、初めに葛飾区として数字で出せるとか、あるいはご意見など把握しているものを共有できたらと思います。

○生涯学習課長 生涯学習課が持っているPTAの情報はごく一部しかありません。PTA支援ということで、縦割りで恐縮ですが、メインでやっているのが地域教育課というところなんです。地域教育課の職員を呼んで、情報提供をさせていただくことはできると思います。

○事務局 今課長が申し上げたように、所管としては地域教育課ですが、区のPTA支援の方向性としては、基本的に各学校のPTAを個別に支援するのではなく、小学校・中学校のPTA連合会の支援をするという形です。そちらの会議体の支援、運営の支援や研修会の支援をPTA連合会と一緒にしています。

ただ、この間PTAのあり方について、保護者からいろいろなご意見が出てくる中で、それぞれのPTAがどのような考え方のもとに活動しているかについて、アンケート調査を実施しました。全部の学校から回答があつたわけではないのですが、各学校のPTAにアンケート調査を行ったデータはあるので、そちらを見ながら、すべての学校ではないということを前提に、それぞれのPTAがどのようなことを考えて、どのような状況にあるのかをデータとしてお出しできます。

あとは担当者レベルで、どのような支援を行っているのか報告してもらうことはできません。生涯学習課としては、生涯学習は小さなお子さんから高齢者まで全てが対象になっている中で、PTAと繋がりを持っている事業があるので、事業を通してPTAとどう関わっているかは報告することができます。その中で、PTAの皆さんに取り組んでもらう事業の中で、20年以上継続している事業があるので、それぞれの時代にどのようなことが出てきたのか話をすることはできます。

○議長 先に区の様子を伺うことで、突っ込みどころをしっかりと持てるような気がします。その上で、ご経験の話もされるとより具体的な話に繋がると思います。区の様子をよく聞きつつ、そこから皆さん1人ずつの声を聞いた方がいい気がします。

○事務局 区が持っている情報や具体的なPTA支援を報告させていただいて、区としてこのような支援が望ましいところまではいけないかもしれませんが、PTA支援はこのようなことを行っていて、アンケート調査の結果を地域教育課からお伝えすること、あわせて生涯学習課としては、PTAと直接関わる事業から分かる現状のお話はできるかもしれません。

○議長 地域教育課、生涯学習課にお話しいただき、残りの時間では今後の順番を決めていく、それだけでボリュームがあります。その中身をもう少し詰める時間は持てるとして、本日の会議が順調に進んでいるので、こちらも共有しておきましょう。そうすると先々のイメージがつけられるかと思います。

こちらの端から読んでいきます、「PTAがない学校はあるのか」、「学校毎のPTAの人数は?」、「PTAの代わりになる事例」、「他地域のPTA事情」、「PTAと学校 地域とどのように関わっているか」、「PTA会費は学校ごとに違うのか」、「区が持っている情報」、「PTA 全国、都、区の傾向について」、「有料のPTA代行いくらするのか?」、「歴史と制度」、「PTAがなくなると地区委員会や町会の行事はどうなるのか?」。

○副議長 「現役の保護者の本音」、「PTA支援ついて区教委の本音」。

○千葉委員 このようなことが今議題になっていますが、どこまで踏み込んでいくかという部分があると思います。予算のことも動かすぐらいの気持ちがないとあまり変化はないかもしれません。教育委員会がどのようなビジョンでPTAのこのような状況を踏まえていくかだと思います。

○議長 いつも言いますが、この会議は言われたことやるどころではなくて、きちんと意見表明をしていく場所です。

○副議長 「保護者の負担感」、「保護者の負担感の実態」。こちらは私ですが、PTAとして、団体として学校改善のためにこのようにしてほしいという、まとまった期待をお持ちなのか。昔の給食制度のような。

「PTAとして何がしたいのか」、「子どもたちはPTAをどう見ているのか」。

○議長 これは調査にありましたか。

○事務局 恐らくないと思います。

○副議長 「メディア等によるPTA報道が与える保護者や地域の影響」、「PでもTでもない人」。

○議長 ただの人にもなりえないので、メンバーシップみたいところは、作ってもらえるといいかもしれないです。

○副議長 「外国にルーツがある方は日本のPTAどう見ているのか」、「先生は全員PTAに加入しているものなのか」。

○生涯学習課長 PTAのTは、スクールではなくティーチャー。両親と先生の共同体という言葉の定義で学校組織ではない。任意団体なので学校組織として先生が全員加入しているのか。

○事務局 メンバーはどういう構成なのか、保護者や先生はどのように認識していて、そちらの認識がずれていると、PTA本体としてはどうなのか。

○議長 導入したときの当初の設定、原理は今と変わっているのか。

○生涯学習課長 昨今の働き方改革で、入れというのも大変だと思う。

○議長 当事者や経験者の思いが違ったり同じだったりする部分を確認していくことが必要なのではないでしょうか。

○副議長 「教員の働き方改革との関連」こちらは私ですが、保護者の負担だけじゃなくて、最近教員が負担を割と言いやすい雰囲気になってきている。教員の負担感を率直に伺いたい。こちらは大島先生の「いちメンバーの率直な意見」。

○議長 カテゴリーを作るよりも皆さんと一緒に考えて、今日くるよりも眺めていろいろ出てくる方がいいと思います。こうして見たときに、何か抜けていたことや思いつかれことはありますか。

事務局と相談して、本日出てきたことを皆さんと共有して、それをまた出していったり、並べ直したりしながら、思っていたことを実現できるようにしたいと思います。一気にゴールまでいかないで、本日のところは今こんなことが出てきているのかにとどめてみようと思います。

今出てきているところで、感想はありますか。気持ちとしては早く聞いてみたいのですが、急いではだめだという話があったので、すごくその辺が面白いと思いました。

○副議長 聞きたいことの中で、うまくいっている地域の事例を聞くというのがなかったので、葛飾区は結構うまくいっている認識があるのでしょうか。

○事務局 何をもってうまくいっているかだと思いますが、PTAがどのようなことをやっていて、どのように評価されているのかということについて、あくまでも任意団体への支援なので、行政は恐らく評価基準を持っていないと思います。これは素晴らしい、これはできていないなどを評価する組織ではない。

アンケートも質問項目の詳細についてこちらは把握していませんし、回答について大まかなものは地域教育課から受け取っていますが、それを評価するのは大変なことです。加入率、どのようなことをやっているか、組織はどうなっているのかなどは分かると思います。どのような組織は良くて、どのような組織はだめかということは、決めようがないと思います。

○副議長 評価というのはキーワードな気がします。評価があってもなくても、なくてもいいということも含め、評価軸がないのかと思います。

○生涯学習課長 行政が持つ評価軸がないということだと思います。

○議長 話を聞いて公民館のことを考えました。公民館は任意団体ではないですが、優良な公民館活動を表彰や評価するという取り組みがあるので、一生懸命やっているとか誰かが

見ているということが伝わる。一方で、PTAには全国協議会のところから見て、そのようなものがあるのかどうか。

○事務局 PTA活動の個々の活動、例えば広報誌はコンテストがあり、東京都や全国で表彰されることがありますが、あくまでもPTA活動の1つが評価されるだけで、PTA本体が評価されるわけではない。先ほど生涯学習課長も申し上げましたが、行政としての評価指標はないと思います。

○議長 歌川先生が先ほどおっしゃっていた組織としての動きについて、もう少し説明をお願いします。

○副議長 給食制度や学校保健制度について、PTAが団体として意見を述べ成立した歴史的な経緯があり、保護者がまとまることで制度を改善することができるという発想が今はあまりない気がします。どちらかといえば、下請けの印象が強いため、負担感という話が出てくるのだと思います。

保護者として、学校がもっとこうなしてほしい、このようなことをやってくれたら助かるなど、横でつながる意識があれば、もう少しやりがい生まれる気がします。今後話を聞いていかないと分からない部分もありますが。下請け感や負担感のようなものが、他の人がやればよいということに繋がっている気がします。

○議長 まだ、うまく言葉になりませんが、皆さんの一言一言が絡み合い、いろいろと繋がってくる。伺っていて面白いと思いました。PTAの代行業者はもうあるのでしょうか。

○事務局 あるようです。PTA活動の一部を業者に委託しやってもらう。

○竹内委員 テレビで見たことがあります。代行業者がいて、PTAの負担を有料で解決しますというものでした。

○議長 伺っていると業務や作業のような部分ですね。それであれば、手の空いている地域の方が代わりにできれば無料かもしれないし、無料じゃなくても今までとは違うつながりが生まれるチャンスかもしれません。

○竹内委員 葛飾区では学校地域応援団というPTAとは違うグループもあります。そこらは、PTAを卒業した方や青少年委員の方がメンバーで、学校の花壇の整備などをやってくれる。他にも、小学生が校外学習で街中探検をする時に一緒に回ったり、家庭科の授業で人手が足りない時に、地域のお母さんが手伝いをしてくれたりする。

○事務局 学校地域応援団や親父の会など、PTAを支援するPTAのOB組織があり、PTAの人手が足りない部分を支える動きがいろいろなところで出てきている。こちらは葛飾区に限ったものではないかもしれませんが、実態としてそのような組織があり、背景としては、保護者の方の生活スタイルが変わってきており、共働きやフルタイム勤務の増加など、関わりたいが関われないということも背景にあり、メンバーではあるが自分たちの生活があり動けない。そこで、地域や学校から求められていることにPTAが対応できず、時間的に余裕のあるOBの方が支えるという動きが出てきている。

○議長 同じことをやるのに、PTAのものとして見るか、それ以外のものとして見るか境界線みたいな話ですね。PTAとして見てもそうですけど、最近の学校をチームとしてみるとか、いろいろな構成の人たちがいる中で見るときに、PTAは独自の位置があるのでしょうか。いろいろな関係者がいて、その方々がすごく活躍したらPTAが相対的にミ

ニマムな役割になりうる。それこそ、Pとしての役割だけになっていけば楽になるかもしれない。

○藤野委員 なかなかそこは難しいところで、学校地域応援団にお願いしたほうが楽なのですよ。時間があって動いてくれるので。そうすると、PTAの役割は何なのかとなってしまう。学校地域応援団はすぐに集まってやってくれる。PTAは皆さん忙しいので集まる人数も少ない。その辺の兼ね合いが難しい学校が出ているのも事実です。

○議長 1回目の話を聞くと登場人物や関係者を整理して、どのように活動しているかを共有してからの方がいい気がします。

○生涯学習課長 恐らく地域や学校によって違う気がします。

○事務局 地域性や歴史、今までの関わり方によって違う。

○生涯学習課長 校長先生の考え方によっても変わるのではないかな。

○事務局 区の支援の現状や先ほどのアンケートの結果がありますが、そもそもPTAはどのような歴史的な経緯で誕生し、どのようなことを目指す組織なのかを1回押さえておく必要があるではないか。その上で、葛飾区は具体的にどのような支援をしていて、PTAの実態はどうかを確認する。アンケートの回答をもとに、具体的な現状が分かる部分もあると思います。

○竹内委員 本日欠席の増田委員と加藤委員は、現状の情報は持っているのでしょうか。

○事務局 PTA連合会として、各学校の実態調査をしているかどうかではないでしょうか。

○竹内委員 持っているような気がします。

○事務局 恐らく、ある程度は持っていると思います。

○千葉委員 中P連では、昨年度も一昨年度も各学校で、このような状況だから活動や組織を変えざるをえないといったことは共有しています。他にも、うちの学校はこのようなことをしますが、同様の学校はありますかといったことが話題になっています。

○伊藤委員 小学校も聞いています。

○千葉委員 各学校のPTAについて、例えば、近隣の学校で保護者同士は繋がっているので、ある学校のPTAの状況についての情報が共有され、隣の学校がこうだからこちらもうこうした方がいいとなる傾向があります。加えて、小学校・中学校の連携もあると思います。

例えば、中学校だと小学校2校や3校から進学してきた時に、小学校ごとにPTAの状況がやはりいろいろ違い、保護者の考えも違うことで摩擦が生まれ差が生じています。あとは、PTA運営が厳しい学校が出てきており、PTA会長を立てられない学校が出てきた中で、数年後には小P連や中P連から脱退するPTAが出てくる可能性があるのではと懸念しています。

○議長 社会教育委員の会議は、PTAに入るように促す役割ではなく、もっとフラットに見た方がいいと思います。私がPTAについて勉強して教えても、あまり役に立たないかもしれないです。歴史的な部分の共有を少し先になっても、専門家から聞いた方がいいと思います。

○事務局 その辺はどうでしょうか。聞きたいことの中に、そもそもPTAとはということが出てきている。そうなった時に、P連の現状や単体のPTAのアンケート結果をもと

に、このような実態があると押さえても、そもそもPTAとはどんな組織なのかということの一部でも押さえられている上で実態を聞くのと、実態から始めると抜けてしまう部分があるような気がします。PTAの歴史的経緯などをどこまで押さえるか。それは、誰かに話してもらうのか、全員で資料を読み込むのか。

○議長 具体的な日程の話をする、次回にそれを組み込むのはなかなか難しいかと思います。次回は葛飾区のPTA支援について伺って、なるべく早い時期に歴史的なことを聞くのか学ぶのか調整していくのがいいと思います。理想的には順番は逆の方がいいと思いますが。

○生涯学習課長 歴史的には昭和20年にPTA制度が始まっている。

○事務局 戦後の教育政策の1つです。

○議長 それこそ、大学の研究室が戦後にスタートした時から、主任教授が社会教育とPTAに関わっている、関係者や研究者の方々がいたはず。そういう方々の成果を学んで、ただ学ぶのに時間がかかるので順番はお待ちいただけたらと思います。

本日意見をいろいろ伺って、持っているものをお聞きするにも前提が必要だということ強く感じました。今までのことを踏まえて共有できたらありがたいと思います。そのようなステップを踏んでから、皆様のお声を聞いて議論していく流れを作っていければと思います。そのようなところが見えたのが本日の収穫ということにしたいと思います。

8月と9月の方向性を確認したということで、本日は終了したいと思いますが、他に何かありますでしょうか。

○事務局 確認ですが、先ほどPTA支援の具体的な部門は地域教育課で、生涯学習課は一部の事業として、PTAとの関わりを持っているわけですが、そもそもオーダーをかけて、このようなことを聞きたいとか、そういうスタイルではなく、あくまでも実態として、現状PTA支援はどうして、先ほど出たアンケートの中身が素材として出てくるので、生涯学習課は、子どもを犯罪から守るまちづくり活動をPTAが取り組むというスタイルでやってきていて、そこでPTAとどのように関わってきたのかということや、事業から見えるPTAの現状をある程度話をする事ができる。そのようなスタイルで来月は報告して、質疑応答を一部行うというイメージです。

○議長 むしろオーダーというのは後々出てきて来るなり、それが大きくなれば、それ自体が提言になろうかと思いますが。まずは、語れることを語っていただく方がいいのではないのでしょうか。

○事務局 本日の協議としてはある程度整理ができましたので、次にその他の部分に移ります。冒頭でスケジュール訂正のお話をさせていただきましたが、それほど大きな変更ではなく、曜日が間違っておりました。前回お配りした資料では9月26日月曜日となっていますが、正しくは9月26日金曜日でございます。併せて、次回は8月25日月曜日の午後2時から、区役所705会議室で行います。

○議長 議事は以上になります。今後の予定ですが、7月16日に教育振興基本計画推進委員会が予定されているので、この会議からご推薦申し上げた竹内委員、連日の会議で恐縮ですが、参加いただきましたらこの会議で様子を教えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局 以前もお話をしましたが、教育振興基本計画の中の、いわゆる生涯学習、社会教育、学校教育について、6年度の実績と7年度の方方向性を事務局から報告させていただいて、ご意見やご質問をいただく会議となります。推進委員会は年2回開催されるので、竹内委員には全体的にご意見を聞いていただいてご報告いただくのと、PTA支援に関わる内容があれば、社会教育委員の会議でご報告いただくという流れで進めたいと思います。

○議長 以上をもちまして、第2回の会議を閉会といたします。どうもありがとうございました。

—閉会—